

食と歴史の街 冬の金沢を訪ねて

氏名：笠松 征司 職業：とちぎ石川県人会 都道府県：栃木県

金沢駅港口のマンテンホテル傍で友人が営む家庭料理の店「味菜」。恒例の新年会が1月14日、ホテル金沢16階で開かれました。今年も男声合唱団の仲間6人で14日早朝宇都宮を出発し、大宮から北陸新幹線で約2時間、11時前に金沢到着。ホテルに荷物を預け右回りの観光バスでひがし茶屋街、兼六園、21世紀美術館、香林坊、尾山神社とお決まりのコースを巡り、お目当ての近江町市場で寒ブリを始め新鮮な寿司に大満足。市場から歩いて10分、尾崎神社のすぐ前、西町でメンバーの知人で宇都宮大学教授のご家族が経営する古民家の「茶論 花色木綿」を訪問しコーヒーを味わいながら音楽談義等しばし談笑し合唱も披露。早朝からの疲れも癒され、いよいよ新年会場へ。



味菜の女将さんは以前、我々のコンサートで宇都宮に来られ日光東照宮等をご案内しメンバーとは旧知の仲。16階から眺める金沢の夜景は美しく又、格別で楽しみの一つです。遠来の客として温かく迎え入れて頂き、お礼に男声合唱を数曲披露、飲めや歌えの大盛り上がりで再会を誓いお開きとなりました。

翌日は永平寺を参拝し、あわら温泉で一年分の力二と海老を食べ尽くしたような一夜でした。

翌朝、福井から金沢に戻り、昼は駅構内の黒ゆりで金沢おでんと地酒に舌鼓、百番街でそれぞれお土産を買ったり郵送したり、時間調整を兼ねて隣の音楽堂を見学し、2階ロビーでワインやコーヒーを飲みながら暫し音楽鑑賞。午後4時何時もより早めに開けて頂き、女将さんの店「味菜」でお別れの宴会、数々の家庭料理、新鮮な魚介類と地酒、心温まるおもてなしで見送られ、思い出深い6人の旅が終わりました。

一昨年は金沢を中心に、昨年は金沢から輪島へ、今年は福井へと。来年は金沢から新潟経由で戻ろうかと話が弾んでいます。